

評価規準の作成の手引き（三省堂版「国語総合」による）

一 国語総合の目標（「高等学校学習指導要領」による）

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

二 国語科の評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」評価規準，評価方法等の研究開発（報告）「」（国立教育政策研究所HP内 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryou/html/mokuji.htm> 参照）

三 言語活動例一覧表（「高等学校学習指導要領」による）

話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
・話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。 ・情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。 ・課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと。	・題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。 ・相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。 ・本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。	・文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。 ・考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。 ・課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。

四 評価方法一覧表

評価の観点	評価方法
1 関心・意欲・態度	A 観察記録（生徒の反応、発言、発表、話し合いへの参加などの様子を観察し記録する。） B 自己評価（アンケート・評価用紙などに記入させることによって把握する。） C ポートフォリオ評価（ノート、プリント、作品類の提出状況を單元ごとにふりかえり把握する。） D 教師からの発問評価（授業時に生徒の意欲を喚起する言葉を投げかけ、その反応を把握する。） A 観察記録（授業中の生徒の話し方、話し合い中の発言、口頭発表の態度を観察し、記録する。）

2	話す・聞く能力	B 自己評価（アンケート・評価用紙などに記入させることによって把握する。） C 相互評価（評価用紙などに記入させることによって把握する。） D 作成資料の提出（スピーチ、説明、ディベートのために作成したメモや発表原稿によって把握する。）
3	書く能力	A 観察記録（授業中のノートやプリントの記述態度を観察し、記録する。） B 自己評価（アンケートなどに記入させることによって把握する。） C 相互評価（評価用紙などに記入させることによって把握する。） D 提出課題の調査（リポートや課題文、手紙文、通知文、紹介文などを点検すること、書く能力を把握する。） E 定期考査（記述テストで成果を見る。）
4	読む能力	A 観察記録（授業中の音読や朗読の様子、発問に対する受け答えの様子を観察し記録する。） B 自己評価（アンケート・評価用紙などに記入させることによって把握する。） C 相互評価（評価用紙などに記入させることによって把握する。） D 提出課題の状況（提出された課題について、読解の状況を把握する。） E 定期考査（テストで読解の能力を見る。）
5	知識・理解	A 観察記録（授業中の生徒の活動を観察する。） B 提出課題の調査（提出された課題について、文法、表記、語句、語彙、漢字等についての理解度を把握する。） C 定期考査（テストで言語にかかわる知識を見る。）

* ポートフォリオ評価は、ポートフォリオと呼ばれるファイルに、生徒の提出物等を学習の進歩に応じて集積・保存する評価方法である。総合的・継続的に関心・意欲・態度を評価することができる。

五 評価規準例（高等学校 国語総合）

* 評価規準例使用上の注意点*

- ・ 評価の方法は、配当時間あたり3項目程度を目安に示してあります。
- ・ 評価の観点と方法については、四の評価方法一覧を参照にして下さい。

単元名（○内時数）	評価の観点と方法	評価規準
水の惑星 ②	1 : A D 2 : A B 4 : A D E 5 : A B C	- 文章を読んでそれぞれの段落の働きを理解している。 - 文章の内容を叙述に即して読み取っている。 - ツガの原生林や氷河を見た体験から、筆者はどのようなことを感じたのかを整理している。 「わたしは水の惑星にいた。」という結びの一文に込められた筆者の自然観を、本文に即して理解している。
真実の鏡	1 : A D	- 文章を読んでそれぞれの段落の働きを理解している。 - 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ろうとしている。

- ・「十分満足できると判断されるもの」（A）、「おおむね満足できると判断されるもの」（B）、「努力を要すると判断されるもの」（C）の三つの評価段階（小中学校の指導要録における観点別学習状況の記入方法による）のうち、ここでは、上段に示した観点に照らして使用できる（B）段階の規準を、予想される学習進度順に示してあります。
- ・評価規準を示す上で、「～できる。」という文末表現は避け、「～している」としてあります。すなわち、「～」の内容を生徒がおおむね満足に実行していると確認できたならば、その生徒が（B）段階の評価規準の内容に到達したものと考えるからです。また、一部の規準が、「～しようとしている。」となっていますが、「関心・意欲・態度」に関わる評価規準についてこのような文末表現を採用しました。「関心・意欲・態度」の観点に関しては、その評価規準に示した内容を正しく実行できているか否かにかかわらず、取り組みもうという姿勢が見えたならば、その評価規準に達したものと考えたからです。
- ・（A）段階の評価規準例については省略しましたが、（B）段階の規準に達した上で、さらに質的な高まりや深まりを持っていると判断された時に、「十分満足できる」と評価できることになります。
- ・【関連事項】は、その単元と相互に連携できるような、他の教科や総合的な学習の時間、特別活動等がある場合に記してあります。
- ・「言語活動例」については、三の一覧表を参考にして下さい。
- ・ここに示した例は、あくまでも一つの目安であり、実際の授業時には、各学校の実情に即応した評価規準の設定が必要です。

	②	羅生門 ④	草之丞の話 ③	コインは円形か ③
4 : D 5 : B E C	1 : A 2 : A 3 : D 4 : A 5 : A B C E	1 : A 2 : A 3 : D 4 : A 5 : A B C E	1 : A 2 : A 3 : D 4 : A 5 : A B E	1 : A 3 : D 4 : A 5 : A B C E
・「わたし」を知るということに対する筆者の考えを簡潔にまとめている。 ・「ぎよつとするほど見慣れない、異質な『わたし』」に気づいた体験を述べる際に、要点をまとめている。 【関連事項】 ◎ ホームルーム活動の時間	・語句の意味を、一般的な意味にとどまらず、文脈に応じて的確にとらえている。 ・音読や朗読などを取り入れながら、読み味わっている。 ・登場人物の行動や性格、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 ・下人の心理の推移と、闇の空間の意味についてとらえている。 ・作品を読んで考えたことを、互いに読み、批評し合っている。	・作品を読んで、その構成を確かめている。 ・「ぼく」の草之丞に対する接し方の変化を、七月、十月、十二月の各場面ごとにまとめている。 ・草之丞が現れ、消えることによって、「ぼく」の心にどのような変化があったかを、整理して理解している。 ・この作品のおもしろさを自分の考えに添って説明している。	・文章の構造、論理の展開をとらえている。 ・筆者の主張を、論理的に理解している。・必要に応じて、筆者の考えを要約している。 ・筆者の言う「レトリック感覚」とは何かを理解し、まとめている。	・文章を段落に分けて理解している。

都市に秘められて いる自然 ②	1 : D 2 : A C 4 : A D E 5 : A B C	・ 自然が喧噪 けんそう に満ちているという筆者の表現を具体的に理解している。 ・ 筆者が都市と自然との関係をどのように考えているかをとらえている。 ・ 筆者の自然に対する考え方について自分の意見を述べている。 【関連事項】 ◎ 総合的な学習における環境教育の内容
詩 木 二十億光年の 孤独 シミ サーカス ②	1 : A 2 : A 3 : D 4 : A D E 5 : C	・ 表現されていることばからイメージをとらえようとしている。 ・ ことばの表現上の効果や修辞技法を理解している。 ・ それぞれの詩のリズム・ことばの響き・内容に注意して読もうとしている。 ・ 詩の感想をわかりやすく表現している。
ユー・ジョーンへの 旅 ③	1 : A 2 : A B C D 4 : A E 5 : B	・ 自分なりの課題意識を持ち、問題や論点を見つけている。 ・ 自分の知識や経験を生かして、問題を様々な角度から検討している。 ・ 自分の考えを論理的に組み立て、明確に相手に伝えている。 ・ 相手の発言をふまえ、相互に話したり聞いたりしている。 ・ アメリカと日本の障害者への接し方の違い方について、意見を交換している。 ・ グループでの話し合いにおいて、積極的に取り組もうとしている。 【関連事項】 ◎ 総合的な学習の時間
水の東西	1 : A C	・ 文章を読んで構成を確かめている。 ・ 文脈を考え、対句表現や語句に注意したりしながら、書き手

猿が島	いくたびも ②	その子二十 ②	世界観の変貌 ③	③
1 : A B D	1 : A 2 : A 3 : D 4 : A 5 : C E	1 : A 2 : A 3 : D 4 : A 5 : C E	1 : B 2 : A 3 : D 4 : A 5 : A B C D E	3 : D 4 : A 5 : B B C D E
・音読や朗読などを取り入れながら、読み味わっている。 ・作品に描かれている情景を、登場人物の発言に照らし合わせ	・図書館やWebサイトなどで、作品や作者に関する資料を幅広く集め、自分の考えを効果的に発表しようとしている。 ・それぞれの俳句について、表現されている情景や感動の中心を整理して説明している。 ・季語と切れ字について理解しその効果について把握している。 ・俳句の感想をわかりやすく表現している。	・図書館やWebサイトなどで、作品や作者に関する資料を幅広く集め、自分の考えを効果的に発表しようとしている。 ・それぞれの短歌について、歌われている情景や感動の中心を整理して説明している。 ・それぞれの短歌の調べに注意して読もうとしている。 ・短歌の感想をわかりやすく表現している。	・文章の構造、論理の展開を把握している。 ・筆者の主張を、論理的に理解している。 ・「ヨーロッパが生み出した世界観」が今日の世界にもたらす弊害について、筆者の考えを整理している。 ・わたしたちは、どのような世界観に立つべきか、自分の考えをまとめて発表している。 ◎ 世界史での学習事項 【関連事項】	・の主張や文章の内容をとらえている。 ・筆者の東西文化を比較する観点を理解している。 ・日本文化に対する考え方を整理している。

情報と身体 ③	言語は色眼鏡である ③	みどりのゆび ④	③
1 : A C D 2 : A C 3 : A B 4 : A B D E 5 : A C	1 : B C 2 : A 4 : A D E 5 : A B C	1 : A B C 2 : A 3 : A C 4 : A B C E 5 : A B C	2 : A B 4 : A B C D E 5 : A B
・指示語や接続詞によく注意を払い、評論全体の論理構造をとらえている。 ・筆者の言うところの、「二つの意味」を本文に即して理解している。 ・どのような言葉がキーワードとして用いられるかを理解している。	・文章の構造、論理の展開を把握している。 ・「言葉は色眼鏡である」という筆者の主張を、本文中に出てくる具体例に即して整理している。 ・「言葉は色眼鏡である」とはどういうことを理解し、整理して説明している。 ・日本語と他の言語とで異なる、世界のとらえかたの違い方について、調べて報告しようとしている。	・登場人物の行動や心情を時間の経過に即して味わっている。 ・死期の近い祖母と向き合うことで「私」の心がどう変化していったかをとらえている。 ・アロエに対する「私」の見方の変化に気づき、その理由を考えている。 ・「私」が祖母から受け継いだ力がどのようなものかを、自分の文章でまとめている。	・て把握している。 ・「私」の「彼」に対する思いが表れている部分を抜き出して整理している。 ・「彼」の「私」に対する思いや、「彼」自身の置かれた境遇について理解している。 ・作者が「猿が島」に象徴させようとしたものについて、自分の意見を持っている。

徒然草	古文入門 鳩と蟻 阿蘇の史 ④	古典の響き ①	ナガサキの郵便 配達 ③
1 : A C D	1 : A B C D 4 : A B C D E 5 : A B C	2 : A D 5 : A	1 : A B C D 2 : A B C D 4 : A
・ 形容詞・形容動詞・助動詞の用法について理解している。 ・ 古語辞典を使いながら本文の読解をしようとしている。	・ 古文を読み、その表現に即して読み味わたりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。 ・ 古文を読んで、表現の特色をとらえようとしている。 ・ 歴史的仮名遣いを理解している。 ・ 文を単語に分けている。 ・ 動詞の活用について理解している。	・ 語句や意味を正しく理解している。 ・ 朗読する際に、速度、声量、抑揚、間の取り方などを工夫している。 ◎ 中学での既習事項 【関連事項】	・ 「情報通信技術」がこれからの社会にどのような役に立つのかについて、自分の考えを整理して述べている。 ◎ 総合的な時間 【関連事項】 ・ 話し合いのための準備のために、本文の内容を整理し理解している。 ・ 自分の意見を述べるためにメモを適切にとっている。 ・ 全員に聞こえる声で意見を発表し、他の発表の中心を聞き取っている。 ・ グループで話し合う際に、他の意見と自分の意見とを比較している。

うたう心 百人一首 梁塵秘抄 閑吟集	土佐日記 ③	伊勢物語 ③	 ④
1 : A 2 : A C 4 : A D E 5 : A B C	1 : A 2 : A 3 : A 4 : A D E 5 : A B C	1 : A D 2 : A 4 : A B C E 5 : A C	2 : A 4 : A B C D E 5 : A B C
・和歌・歌謡のリズムに注意して朗読しようとしている。 ・和歌・歌謡の表現の特色や時代による変化を理解している。 ・それぞれの作品に描かれている情景・心情を理解している。 ・「百人一首」「梁塵秘抄」「閑吟集」の作品の特徴をとらえている。	・日記文の特徴について理解している。 ・歌人紀貫之について理解を深めている。 ・筆者が、この日記を女性の立場で書いた理由を理解している。 ・ことば遊び的な要素を理解している。 ・和歌に関する知識を踏まえた上で、そこに込められた信条を理解している。	・物語の大意を把握している。 ・物語や日記の歴史について理解している。 ・登場人物の心理を状況や行動に即して理解している。 ・敬語法の基本について理解している。 ・助動詞の用法について理解を深めている。 ・「白玉の露」を読んで、和歌に込められている男の気持ちを説明している。 ・「さらぬ別れ」読んで「母」と「子」の思いをまとめている。	・「榎の木僧正」の話のおもしろさを理解している。 ・「高名の木登り」で筆者は何に関心しているかを、簡潔にまとめている。 ・「友とするに悪き者」の本文に書かれている、「友」に対する筆者の考えを、筋道を立てて話している。 ・「西大寺の静然上人」について、資朝卿の人物像をとらえている。 ・「花は盛りに」を読んで作者の美意識を読みとっている。

漢文に親しむ 春曉 五十歩百歩	1 : A B C D 2 : A 3 : A D	・漢文を読んで、表現の特色をとらえようとしている。 ・朗読する際に、速度、声量、抑揚、間の取り方などを工夫している。 ・自力で書き下し文を書いている。
奥の細道 ③	1 : A 2 : A 3 : A 4 : A B D E 5 : B C	・文脈を考えながら、本文の内容を理解している。 ・「旅立ち」について、対句的な表現をとらえている。 ・「平泉」について、作者が涙を落とした理由について理解している。 ・「立石寺」について、「閑かさや」の句に詠まれている情景を本文に即して説明している。
平家物語 ③	1 : A 2 : A 3 : A 4 : A D E 5 : A B C	・和漢混交文の特徴について理解している。 ・敬語法について理解を深めている。 ・助詞の用法について理解している。 ・「橋合戦」について、文章の調子を生かすように朗読している。 ・「橋合戦」を読んで、浄妙房の活躍ぶりをまとめている。 【関連事項】 ◎ 日本史での学習事項
異界と出会う 清明の術比べ 百鬼夜行 ②	1 : A D 2 : A 3 : A 4 : A D E 5 : B C	・文脈を考えながら、本文の内容を理解している。 ・老僧が清明を訪ねてきた目的をとらえている。 ・老僧が清明に降参した理由を、読み取っている。 ・日常とは異なる不思議な世界についての物語を、想像力を働かせて鑑賞している。

蛇足 ③	漢詩六首 唐詩選 三体詩 唐詩三百首 白氏文集 ⑥	復活 搜神記 ④	鶏鳴狗盜 史記 ④	論語のことば ④
4 : A B D E 5 : A B C	1 : A B C D 2 : A B C 3 : A 4 : A B C D E 5 : A B C	1 : A B C 2 : A C 3 : A 4 : A D E 5 : A B C	1 : A B C 2 : A 3 : A B C D E 4 : A B C 5 : A B C	1 : A D 2 : A D
・ 故事成語の内容を叙述に即して理解している。 【関連事項】 ◎ 中学での学習事項	・ 漢詩のきまりについて理解している。 ・ 訓読を通して内容を理解している。 ・ それぞれの詩に表現されている情景や心情について、整理している。 ・ 好きな詩を選んで、暗唱しようとしている。	・ 漢文の内容を、段落ごとにまとめている。 ・ 漢文の訓読に必要な帰り点、送り仮名、句読点などに関するきまりを理解している。 ・ 「男」が女を後夫に返さない理由について、本文に即して説明している。 ・ 王導がどのような結論を出したかを把握している。 ・ この小説の面白さを相手にわかりやすく説明している。	・ 作品中に出てくる句形について理解を深め、その訓読の仕方や訳しかたについて正しく理解している。 ・ 漢和辞典を使いながら本文の読解をしようとしている。 ・ 作品に描かれている情景を、登場人物に照らし合わせて理解している。 ・ 中国の古典について、その思想や時代状況について理解している。	・ 古代中国の思想について理解している。 ・ 孔子の考え方について、自分の考えを持ち述べている。 ・ 白文に訓点を適切に付している。

3 : A D		・印象に残った章を選び、自分の感想をまとめている。
4 : A B D E		
5 : B C		

七 参考文献（評価規準例を作るに際して、以下の資料を参考にしました。）

- ・「文部省告示 高等学校学習指導要領」 大蔵省印刷局 平成11年3月
- ・「高等学校学習指導要領解説 国語編」 東洋館出版社 平成11年12月
- ・教育課程審議会答申 平成12年12月
- ・文部科学省初等中等教育長通知 平成13年4月
- ・「評価規準，評価方法等の研究開発」 国立教育政策研究所教育課程センター
次のアドレスでも見られます。 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryu/html/index.htm>
- ・「月刊国語教育 指導を高める評価改善の決め手」 東京法令出版 平成14年5月別冊
- ・「日本語学 特集 国語科教育における評価」 明治書院 平成14年6月
- ・「実践 国語教育 評価で国語の授業を改善する」 明治図書出版 平成14年6月7月号
- ・「月刊国語教育 特集 観点別評価から評定へ」 東京法令出版 平成15年2月号
- ・「指導と評価」 3月号 (社) 日本図書文化協会 平成15年3月号

新編国語総合 表現編

教材（学習活動）	配当時間	活動のねらい	活動の大まかな流れ	評価の観点と方法 *（）内には直前の方法の具体例が示してある。	評価規準
スピーチ「わたしのこと」を話すこと5		・自分の体験や考えを客観的に把握	① ショウ・アンド・テルの方法を学ぶ。	1 : A D 2 : A B C D（ス	・活動に主体的に参加し、話し合いでは、他

道順を説明してみよう	こんな人、こんな本をブックガイドを作ろう	そう ショウ・ア ンド・テル
4	5	
・事柄をことばで伝えることの大切	・読書に對する興味。・関心を喚起する。・情報の取材・整理をし、紹介文にまとめる。・表現活動や相互評価を通して、自らのものとなえ方を自覚する。	する。・自分のことを具體的にわかりやすく話すための姿勢（工夫・スキル）を学習する。・他の人のスピーチを聞き、それに対する意見をきちんと持つ。
①ことばによる伝達の難しさを自覚する。	②選んだ本に関する情報を取材・整理し、カードにまとめる。③カードにまとめていく際、積極的に相互評価を行う。④仕上がったカードを集約し、ブックガイドを作り上げる。	②教科書のモデルを参考に、自分のスピーチ内容と見せる物とを考える。③スピーチ原稿を書く。④スピーチをし、自己評価する。また、他の人のスピーチをきちんと聞いて評価・アドバイスをする。
1 : A 2 : A 3 : B 4 : C 5 : D	1 : A D (ブックガイドの提出) 2 : A B C D 3 : A B C D (ブックカードの提出) 4 : B 5 : A B	1 : A B C D (スピーチ原稿の提出) 2 : A B C D 3 : A B C D 4 : A B 5 : A B
・グループで意見交換や検討をする際に、積極的に参	・紹介する本についての情報を収集し、整理している。・意見交換する際に、積極的に参加し、他の人の意見を聞きまた発言している。・選んだ本のよさを伝えようとしている。・他の人を読む気にさせる。紹介文を書いている。	の人の意見を聞き、また発言しようとしている。・自分を見つめ、自分の体験や考えを客観的に把握している。・スピーチの内容が、自分の体験に基づいたもので、自分が含んでいる。・見が含まれている。・理し、わかりやすいことを整理している。・適切な態度で話し、聞いている。・他の人の意見を聞き、発表に反映させている。

事例を正確に伝える	手紙を書いてみよう 手紙の形式	討論ゲームをしよう ディベート
4	4	4
さを自覚し、トレーニングをする。・ことばで正確に伝えるためにさまざまな工夫をする。・コミュニケーションの基本が「相手の立場への想像力」であることに気づかせる。	・手紙の形式について理解を深め、知識を身につける。・理解や知識を活用して、実際に手紙を書く。	・ディベートを活用した討論ゲームを通して、討論に参加する際の基本的な姿勢を学習する。
② グループに分かれ、道順の口頭説明を行い、意見・感想を交換する。③ ②をもとに、道順の説明文を作成する。書いていく過程でも、適宜相互評価を行う。④ 道順とは別の課題で説明文を書き、相互評価を行う。	① 手紙を書いた経験を振り返る。② 状況に応じた手紙の形式やマナーについて調べ、発表する。③ 想定された条件に即して、手紙を書く。④ 書いた手紙について相互評価を行う。	① 教科書のモデルを参考にして、討論ゲーム（の進め方）② A B C D を理解する。③ テーマについて、自分の立場を決め、理由・根拠を考える。また、自分と異なる立場の理由・根拠を考える。
3 : A B C D（道順の説明文の提出） 5 : B	1 : A D 2 : A B C D 3 : A B C D（手紙文、はがき文の提出） 5 : A	1 : A D 3 : A B C D（感想文の提出） 4 : A 5 : A
加しようとしている。・他の人の意見を聞いた上で、発言しようとしている。・題材を適切に選定している。・情報を適切に整理している。・情報を、正確に伝えようとしている。	・活動に主体的に参加し、作業を行っている。・手紙とはがきの特色や書き方について理解している。・目的を明確にした上で、相手に配慮した手紙やがきを書いていく。	・活動に主体的に参加しようとしている。・討論に参加する際の基本的な姿勢について理解している。・自分の意見を整理して述べていく。・議論の流れを正確にとらえている。・適切な態度で話し、聞いている。・肯定・否定両方の立場で考えよう。

発表「○○って、何？」 インタビュ ーから発表 ・討論へ		ることばを見つめ
6	8	
・発表という表現 方法、その準備 から実施、まとめ に至るまでを体験 して身につける。 ・他者とのコミュニ ニケーションを通 して、自らのもの の見た方を相対化 づることの意味に づく。	・日常生活してい ることに「を自 覚的に見直しと ば、」に對する 意識を高める。 ・資料や読みとり 扱い方・読みとり	
③役割分担を決め、 討論ゲームを実施す る。 ④試合を振り返る。	①日常生活で無意識 に、触れている、話 方、ことば遣いを確 認し、整理する。 ②クラスでことばに 関する問い、その結 果調	①日常生活で無意識 に、触れている、話 方、ことば遣いを確 認し、整理する。 ②クラスでことばに 関する問い、その結 果調
1: A B C (作成 資料の提出) 2: A B C D (口 頭発表のレジメ の提出) 5: A B	1: A B C D (レ 3: A B C D 2: A B C D ポ: A B 文の提出) 5: A B	
としている。	・自分自身の話し方、こと ばの使い方を、直そう としていく。 ・調査の方法や数値デー トの分析のしかたを理 解している。	・自分自身の話し方、こと ばの使い方を、直そう としていく。 ・調査の方法や数値デー トの分析のしかたを理 解している。

	新聞に投書してみよう く意見文を書
	7
方、アンケート調査の活用について学習し情報、「のあり方について考える。「情報」を活用してレポートを書く。	・意見文を書く基 本を学習する。 ・話し合いや相互 批評を通じて、自 らの問題意識の有 り様を自覚する。 ・同時に、自らの ものの見方を相対 化する。大切 さに気づく。 ・自分の意見を他 に伝えることの喜 びを体験し、同時 にその責任を理 解する。
③を考察する。 ②の結果と共通 する既存のデー タと比較する。 較し、考察する。 ④教科書のレポ ート例を通じてレ ポートの形式を学 んで、別の課題で レポート文を書き 、相互評価を行う。	①新聞の投書欄を三 日分読み、関心を つけた投書の内容と それに対する感想 をまとめる。 ②グループに分かれ て①を発表し合い 、相互に意見・感 想を述べ合う。 ③②をもとに、グ ループごとに最も 印象に残った投書 を全体で紹介する。 ④投書を書く。書 き上げる過程で適 宜相互批評を行う。 ⑤書き上げた投書 をグループやクラス で読み合い、相互 批評を行う。
	1 : A B C D 2 : A B C D 3 : A B C D 4 : A B C D (投 書文の提出) 5 : A B C D (メ モードの提出)
・レポートの形式に即して書いてある。 ・日本語についての方 を広げたり、関心を高 めたりしている。 ・グループでの調査活 動などに積極的に参加 し、その中で自分な る成果を出している。	・新聞の投書を主体的に読 み、感想をまとめようとし ている。 ・話し合いに積極的に参加 しようとしている。 ・日常生活や課題を起こし、そ のら問題や課題を発見してい る。 ・自分の考えや意見を明確 にし、わかりやすい文章で 表現しようとしている。